

## 決算審査における事業評価の結果の反映状況

### 1 事業名等

事業番号	10	事業名 (実施計画名)	焼却灰等有効利用事業
事務事業名 (業務棚卸評価)	最終処分場の維持管理		
担当部課	環境部環境事業センター		

### 2 決算審査における事業評価の結果

議会評価	現状のまま継続する
理由	最終処分場の使用期限との関係で、現時点では、現状のまま継続でやむをえない。
附帯意見	ごみの減量化のさらなる推進を図るとともに、再資源化については、さらなる研究が必要と考える。

### 3 評価結果の反映状況

事業費	23年度予算額 (案)	(参考) 22年度予算額	(参考) 21年度決算額
	48,707 千円	45,058 千円	44,980 千円
議会評価に 対する考え方	<p>平成24年度のリサイクルセンター稼働に向けて、ごみの細分別化による焼却量及び灰発生量の減量化を図ります。</p> <p>現在、実施している焼却灰等を溶融する方法は石や金属（レアメタルも含め）として再資源化され、資源の少ない日本には有効な方法ですが、高温にするために燃料や電気を多く使用し地球温暖化への影響（二酸化炭素の排出量が灰の処理1トン当たり約40～70%）やコストが高いため、これらの低減の検討を行います。</p>		
今後の事業展望	<p>焼却灰等の処理は、最終処分場の新たな確保が困難なことから再資源化による方法が主流になると考えられ、引き続き溶融処理は行っていきたいと考えていますが、最近では、溶融処理以外にもセメントや砂にする方法もあり、これらについても安全性を考慮し検討していきます。</p>		